

行事報告書(研修)

報告者:森本 和子

行事名	2023年10月度 自然観察会
実施日時	2023年10月19日(木曜日) 10時10分～14時半 天候:快晴
場所	宝塚自然の家の周辺
テーマ	秋の植物観察
講師	華崎律子さん(全体リーダー)、高山さん
参加者数	22名
内容 (項目と概要)	<p>観察コース :西谷小学校前～宝塚自然の家～松尾湿原～BBQ 広場(昼食)～周辺の観察～宝塚自然の家～西谷小学校前 バス乗車14:48</p> <p>◆西谷小学校前でバスを下車してから観察を開始。          ピンク色の花がかわいいミゾソバ。白花と赤花のゲンノショウコ。イヌガラシ。          ツクシハギ(竜骨弁や旗弁の周囲が白いので全体に白っぽく見える)。ダイオウショウ(葉が3枚)。アスナロとヒノキ。センボンヤリ(秋に閉鎖花のついた花茎を林立させる姿を槍にたとえた)。コバノガマズミ(葉の裏に毛が多い)。サワヒヨドリ(茎が分枝しないヒヨドリバナは分枝する)。ヒメジソ(がく片上唇の切れ込みが浅い。イヌコウジュは切れ込みが深い)。ヌルデの虫こぶ(五倍子)。          ミツバアケビの実を発見。美味しそうだったので皆で取って味見をした。甘い!</p> <p>◆松尾湿原          まずリンドウが楚々と咲いていた。ヤマラッキョウは蕾で後一息で咲きそう。          キセルアザミ(頭花は下を向いて咲くが花期の終わりには上を向いて種を飛ばし易くする)。ホザキノミカキグサ。ムラサキミカキグサ。</p> <p>◆BBQ 広場で昼食をとり周辺の観察をしながら宝塚自然の家まで          センブリ(二年草で一年目は根生葉のみ)。コメナモミ(5枚の総苞片は腺毛になっており果実と共に他の物にくっつく。メナモミの茎には毛が密生するがコメナモミの茎の毛は疎ら)。ウナギツカミ(アキノウナギツカミ→ウナギツカミに変わった)。コブナグサ(葉の形がコブナに似ている)。アカバナ(秋になると葉が紅葉するため“赤葉菜”となっており、花が赤いからではない)。イヌセンブリ(センブリの花より花の中に白い毛が多い)。イヌヨモギ(花の茎が垂れ下がる)。ママコナ(花冠下唇にある2つの隆起を米粒にたとえた)。ツリガネニンジンと白花タイプのツリガネニンジン。          ウメバチソウの群落がありちょうど満開だ。(ウメバチソウの5本の雄しべは花が開いた日にはまだ花糸に短くくっついている。雄しべに見えるのはすべて仮雄しべで花粉を持たない。7日かけて1本ずつ順に伸びて反り返っていく。その事から開花して何日目かが分かる。因みに7日目以降に今度は雌しべが成熟して行き自家受粉を避ける方法をとっている)。</p> <p>◆西谷小学校前まで          ゴキヅル(果実が熟すと横に割れてそれが基石を入れる器に似ている為。ゴキブリとは関係が無い)。ツルニンジン。</p>
感想	<p>今シーズン最後の夏日を予想されていて暑くなりましたが会員の方は熱心に観察をされました。今日のお目当てのウメバチソウとイヌセンブリの花がちょうど満開で素晴らしかったです。秋晴れの下のどかな里山を歩くことが出来て充実した一日になりました。</p>

写真：大原さん、森本



全 体 写 真



リンドウ



ミツバアケビの実



ママコナ



イヌセンブリ



ウメバチソウ



割ったゴキヅルの実  
黒い種が2個入っている